

学校評価の分析と考察

1 教職員評価より

- (1) A + Bの合計が5ポイント以上アップした項目
 - ア 10ポイント以上アップ…なし
 - イ 5～10ポイントアップ…Ⅱ③
- (2) A + Bの合計が5ポイント以上ダウンした項目
 - ア 10ポイント以上ダウン…なし
 - イ 5～10ポイントダウン…Ⅱ①、Ⅱ②、Ⅲ②、Ⅳ③

全体的に見て、昨年度の学校評価と大きな変化は見られなかった。

今年度、5ポイント以上アップした項目Ⅱ③は、昨年度の学校評価で唯一課題として挙げた項目で、担当職員を中心に、知の向上部が積極的に働きかけてくれたおかげで、週末でのタブレットの持ち帰りが定着し、無事に改善することができた。

5～10ポイントの下がっていた4項目については、「分からない」と回答している職員が2.6～5.3%おり、その回答を除けば5ポイント以上ダウンしている状況ではない。「分からない」と回答した職員が数名でた理由は、今年度、学校評価の回答率を上げるため、名簿を使用して全職員に回答いただいたため、これにより授業に携わらない事務職員や用務員等の回答結果が反映されたためと考える。

そのため、本校教職員の学校に対する自己評価は、昨年度同様、高いといえる。

2 保護者評価より

- (1) A + Bの合計が5ポイント以上アップした項目
 - ア 10ポイント以上アップ…なし
 - イ 5～10ポイントアップ…Ⅲ④
- (2) A + Bの合計が5ポイント以上ダウンした項目
 - ア 10ポイント以上ダウン…Ⅴ⑥
 - イ 5～10ポイントダウン…Ⅰ①、Ⅴ⑦

全体的に見て、昨年度の学校評価と大きな変化は見られなかった。

唯一ポイントがアップしていた項目Ⅲ④については、今年度、新たに取り組んだ不審者対応教室や命を守る地震教室が評価されたと考える。

項目Ⅴ⑥が、10ポイント以上ダウンした理由は、年3回計画されていた親子クリーン活動の内、2回が雨天のため中止となったため、活動する機会自体が少なかったためと考える。また、5～10ポイントダウンした項目Ⅰ①については、学校評価で挙げた例が抽象的なため、具体的に何を指しているのかイメージできないこと、項目Ⅴ⑦については昨年度と違い台風での臨時休業がなかったため、「学校と連携して」の部分で評価が下がったと考える。

次年度は、学校評価項目の例を、各学年ごとに具体的に記載し、イメージしやすい学校評価項目にする必要がある。

3 学校運営協議会評価より

昨年度と同様、分からない場合（Eと回答）を除いて、すべての項目で、AかBの評価をいただいております、本校教育に対して高く評価していただいた。